

経営比較分析表（令和4年度決算）

大分県 国東市

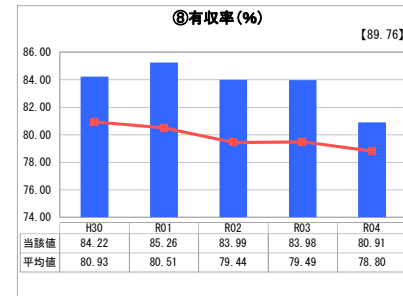
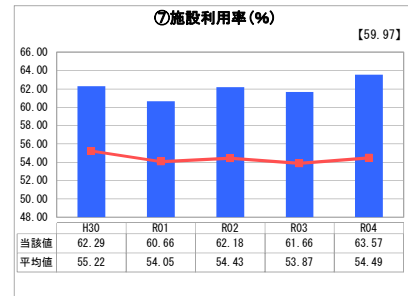
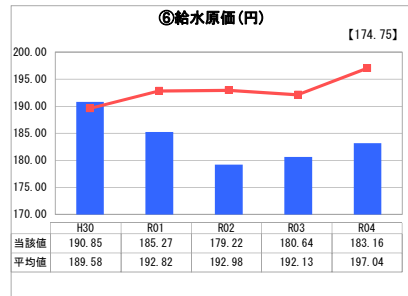
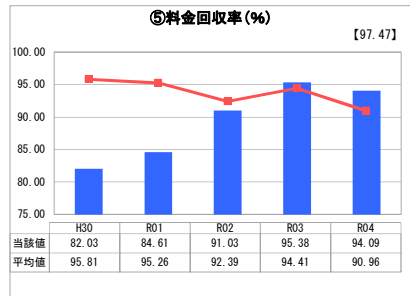
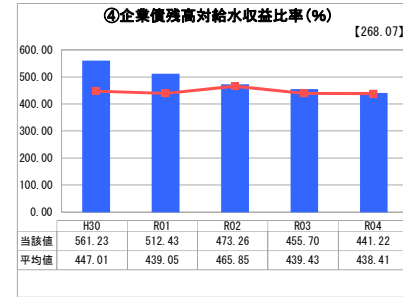
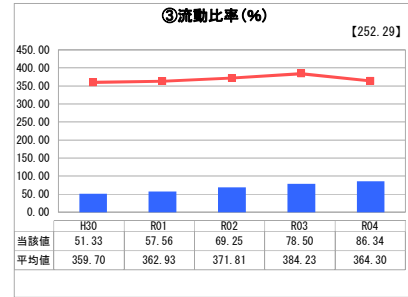
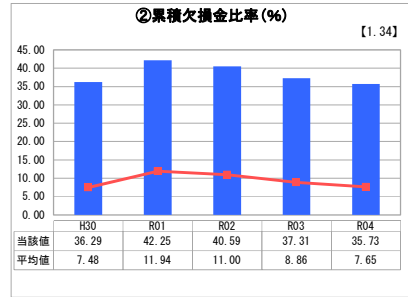
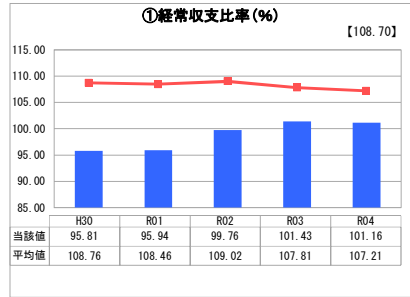
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	59.59	53.42	3,410	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
26,179	318.10	82.30
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
13,900	26.53	523.94

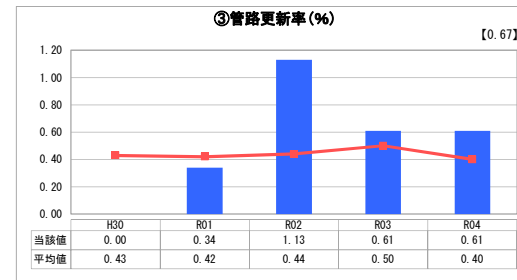
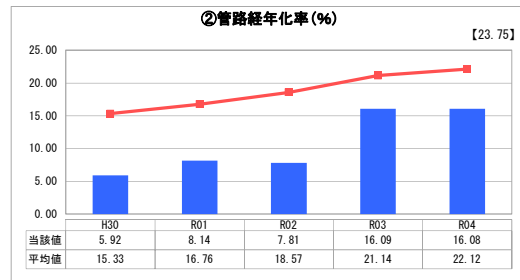
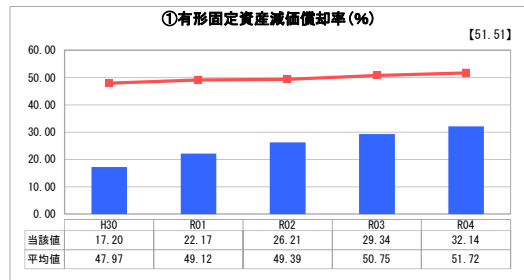
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①『経常収支比率』・・・経常費用が経常収益でどの程度賄われているかを表す指標です。100%以上となっていますが、給水人口が減少傾向であることから、今後も費用削減や料金収入の確保が必要です。
- ②『累積欠損金比率』・・・営業収益に対する累積欠損金の状況を表す指標です。0%を上回っており、今後も費用削減と料金改定を行う必要があります。
- ③『流動比率』・・・短期的な債務に対する支払能力を表す指標です。100%を下回っており、支払能力を高めるための経営改善を行う必要があります。
- ④『企業債残高対給水収益比率』・・・給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標です。類似団体平均値を上回っていますが、近年は平均値に近づいている状況です。
- ⑤『料金回収率』・・・給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表した指標です。100%を下回っており、費用の削減や料金収入の確保が必要です。
- ⑥『給水原価』・・・有収水量1m³当たりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標です。類似団体平均値を下回っており、費用削減が進んでいると言えますが、今後も費用削減や有収率の向上に取り組む必要があります。
- ⑦『施設利用率』・・・一日配水能力に対する一日平均配水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標です。類似団体平均値を上回っていますが、今後も施設の統廃合等を含め、適切な施設規模を検討していきます。
- ⑧『有収率』・・・施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標です。類似団体平均値を上回っていますが、今後も漏水対策に取り組んでいきます。

2. 老朽化の状況について

- ①『有形固定資産減価償却率』・・・有形固定資産のうち、償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標です。類似団体平均値を下回っており、施設は比較的新しいと言えます。
- ②『管路経年化率』・・・法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標です。類似団体平均値を下回っており、管路は比較的新しいと言えます。
- ③『管路更新率』・・・当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標です。類似団体平均値を上回っており、今後も計画的に更新していく必要があります。

全体総括

平成28年度から、11簡易水道と1給水施設で運営してきた事業を統合して上水道事業となり、公営企業会計に移行しました。移行により、水道料金を主たる財源とした事業運営が必要となることから、平成28年度から10%値上げした新料金を適用しました。

また、令和2年10月1日から段階的従量制を導入したうえで、10%値上げした新料金を適用しました。

人口減少や水道料金収入の減少が見込まれ、経営状況は厳しさを増しています。老朽管の更新等、施設整備を行う必要もあるため、経営戦略に則りながら、中長期的な視点に立って今後も料金改定や計画的な事業推進を図っていく必要があります。